

(2) 食料品・飲料等製造業

◆ 概要

ここでは、産業中分類の食料品製造業と飲料・たばこ・飼料製造業を合わせて食料品・飲料等製造業とする。

平成22年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）によると、事業所数は365所で、前回（平成21年）比較では、17所減（対前年増加率△4.5%）となっている。従業者数は10,778人で、前回（平成21年）比較では、92人の増加（同0.9%）となっている。製造品出荷額は7,585億95百万円

となっており、前回から23億88百万円減少（同△0.3%）している。京都市の製造業に占める食料品・飲料等製造業の割合は、事業所数が13.6%、従業者数は16.5%、製造品出荷額等は34.6%となっている。

平成13年以降の推移を見ると、事業所、従業者数は増減しながらも緩やかな減少傾向にある。製造品出荷額等は、平成14年から増加傾向にあったが、平成16年以降ほぼ横ばいとなった。また、平成20年以降近年もほぼ横ばいとなっている〔表Ⅱ-3-2-1、図Ⅱ-3-2-1〕。

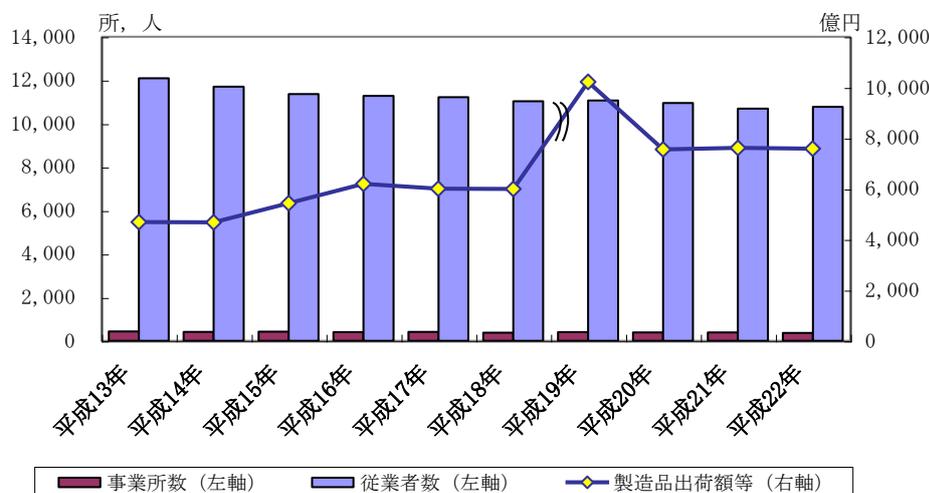
表Ⅱ-3-2-1 食料品・飲料等製造業の事業所数，従業者数，製造品出荷額等の推移（単位：所，人，百万円）

| | 事業所数 | 従業者数 | 製造品出荷額等 |
|-------|------|--------|-----------|
| 平成13年 | 433 | 12,087 | 468,833 |
| 平成14年 | 410 | 11,697 | 468,208 |
| 平成15年 | 420 | 11,365 | 543,188 |
| 平成16年 | 399 | 11,280 | 619,739 |
| 平成17年 | 405 | 11,220 | 600,431 |
| 平成18年 | 380 | 11,033 | 599,640 |
| 平成19年 | 397 | 11,064 | 1,021,737 |
| 平成20年 | 382 | 10,950 | 755,201 |
| 平成21年 | 382 | 10,686 | 760,983 |
| 平成22年 | 365 | 10,778 | 758,595 |

資料：京都市総合企画局「平成22年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

注：平成19年調査で調査項目を変更したため、製造品出荷額等は前回の数値とは接続しない。

図Ⅱ-3-2-1 食料品・飲料等製造業の事業所数，従業者数，製造品出荷額等の推移



資料：京都市総合企画局「平成22年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

注：平成19年調査で調査項目を変更したため、製造品出荷額等は前回の数値とは接続しない。

平成22年の製造品出荷額等の内訳は、食料品が1,340億92百万円、飲料・たばこ・飼料が6,245億3百万円となっており、飲料・たばこ・飼料が全体の8割を占めている。

◆ 市内の食料品・飲料等製造業の特色

食料品・飲料等製造業では、食料品製造業の製造品出荷額等が前回（平成21年）比較では18億2百万円増（対前年増加率1.4%）を示しており、飲料・たばこ・飼料製造業の製造品出荷額等が41億90百万円減（同△0.7%）となっている。なお、飲料、たばこ、飼料製造業の製造品出荷額等の91.8%を占める4業種の製造品出荷額等データが非公表※となっており、詳細な分析は不可能である。

公表されているデータで製造品出荷額等を産業細分類別に見ると、清酒製造業が483億15百万円（構成比6.4%）で最も多く、次いで生菓子製造業の332億円（同4.4%）、豆腐・油揚製造業の118億14百万円（同1.6%）の順となっている〔表Ⅱ-3-2-2〕。

※ 工業統計調査では、分類別の事業所数が2以下の場合には、秘匿措置として、当該分類の製造品出荷額等のデータを非公表としている。

表Ⅱ-3-2-2 食料品・飲料等製造業の主な産業（細分類）別事業所数、従業者数、製造品出荷額等
（単位：所、人、百万円、%）

| | 事業所数 | | 従業者数 | | 製造品出荷額等 | |
|-----------------------|------------|--------------|---------------|--------------|----------------|--------------|
| | 事業所数 | 構成比(%) | 従業者数 | 構成比(%) | 製造品出荷額等 | 構成比(%) |
| 食料品・飲料等製造業 | 365 | 100.0 | 10,778 | 100.0 | 758,595 | 100.0 |
| 清酒製造業 | 20 | 5.5 | 865 | 8.0 | 48,315 | 6.4 |
| 生菓子製造業 | 66 | 18.1 | 2,287 | 21.2 | 33,200 | 4.4 |
| 豆腐・油揚製造業 | 18 | 4.9 | 613 | 5.7 | 11,814 | 1.6 |
| 他に分類されない食料品製造業 | 39 | 10.7 | 784 | 7.3 | 10,732 | 1.4 |
| 野菜漬物製造業（缶詰、瓶詰、つぼ詰を除く） | 21 | 5.8 | 764 | 7.1 | 10,346 | 1.4 |
| その他の水産食料品製造業 | 13 | 3.6 | 571 | 5.3 | 9,140 | 1.2 |
| 部分肉・冷凍肉製造業 | 4 | 1.1 | 270 | 2.5 | 8,920 | 1.2 |
| めん類製造業 | 20 | 5.5 | 381 | 3.5 | 5,652 | 0.7 |
| そう（惣）菜製造業 | 18 | 4.9 | 524 | 4.9 | 5,411 | 0.7 |
| ビスケット類・干菓子製造業 | 16 | 4.4 | 563 | 5.2 | 4,508 | 0.6 |

資料：京都市総合企画局「平成22年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

なお、細分類については主なものを取り上げている。

① 清酒製造業

市内の清酒製造業は、そのほとんどが伏見区に集積している。伏見区には、長年の歴史の中で培われた醸造技術や良質な水が豊富にある。江戸時代には京と堺を繋ぐ水陸運の要所として栄え、現代に残る清酒製造業なども創業し醸造地基盤を形成した。明治時代後半には、国内有数の清酒醸造地として、兵庫県灘と並び称されるまでの地位を確立した。

平成 22 年工業統計調査結果報告（従業者 4 人以上の事業所）によると、京都市の清酒製造業は事業所数 20 所、従業者数 865 人、製造品出荷額等 483 億 15 百万円である。また、平成 22 年度国税庁税務統計によると、京都府の清酒の課税数量は 101,535 キロリットルと兵庫県に次いで全国 2 位であり、その割合は 16.8%となっている。時系列で見ると、全国的に清酒の生産量は減少しているが、京都府は比較的減少の度合いが小さく、全国における比重は高まっている〔表Ⅱ-3-2-3〕。

総務省の平成 23 年家計調査年報によると、全国における酒類全体の消費動向は若干減少傾向となっている。「清酒」の消費は減少傾向にあり、平成 19 年からの伸び率は△14.0%となっている。一方、「発泡酒」、「ワイン」の消費は増加しており、特に「発泡酒」は大きな伸びを示している。これは、各メーカーが商品多様化に注力していることや低価格であることで「ビール」の代換として需要が増加していることも一因となっている。また、「ワイン」については、より飲みやすい安価な価格帯の商品が販売されていることや、種類が豊富になっていることなど、少しずつ日本に定着しつつあることが一因として挙げられる〔表Ⅱ-3-2-4〕。

酒類業界は若年層の飲酒離れ、高齢化に伴う飲酒量の減少、健康志向の高まりなど、取り巻く環境は厳しいものの、消費者の嗜好多様化を背景に、ワイン市場と発泡酒等の低アルコール飲料市場が拡大傾向にある。また、各清酒メーカーにおいても新しい日本酒の飲み方の提案を強化するなど、需要増への巻き返しを図っている。

表Ⅱ-3-2-3 酒税課税数量（清酒）の推移

（単位：kℓ、%）

| | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 対16年度 伸び率 |
|-------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------|
| 全 国 計 | 753,011 (100.0) | 729,686 (100.0) | 700,369 (100.0) | 675,944 (100.0) | 652,980 (100.0) | 616,210 (100.0) | 602,656 (100.0) | -20.0 |
| 大 阪 国 税 局 計 | 353,101 (46.9) | 343,829 (47.1) | 313,684 (44.8) | 320,514 (47.4) | 313,122 (48.0) | 304,032 (49.3) | 291,417 (48.4) | -17.5 |
| 京 都 府 | 116,356 (15.5) | 114,702 (15.7) | 111,596 (15.9) | 109,335 (16.2) | 106,898 (16.4) | 102,838 (16.7) | 101,535 (16.8) | -12.7 |
| うち伏見地区 | 114,719 (15.2) | 112,909 (15.5) | - | - | - | - | - | |
| 兵 庫 県 | 222,077 (29.5) | 215,172 (29.5) | 206,667 (29.5) | 198,882 (29.4) | 194,874 (29.8) | 190,483 (30.9) | 179,907 (29.9) | -19.0 |
| うち灘地区 | 197,991 (26.3) | 190,276 (26.1) | - | - | - | - | - | |

資料：国税庁「税務統計（酒税関係）」

伏見地区、灘地区の数値は、大阪国税局からの聞き取りに基づく。平成18年度以降は非公表。

注：「灘」は西宮、芦屋、灘の税務署管内の合計、「伏見」は伏見税務署管内

（ ）内は全国に占める割合

表Ⅱ-3-2-4 全国の酒類の消費動向の推移

(単位：円，%)

| | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 対19年伸び率 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 酒類全体 | 39,358 | 39,340 | 37,955 | 38,046 | 36,577 | -7.1 |
| 清酒 | 6,407 | 6,051 | 5,813 | 5,700 | 5,508 | -14.0 |
| 焼酎 | 6,204 | 6,441 | 6,212 | 6,439 | 6,065 | -2.2 |
| ビール | 15,407 | 14,725 | 13,142 | 12,626 | 11,553 | -25.0 |
| ウイスキー | 1,085 | 1,020 | 1,119 | 1,153 | 1,023 | -5.7 |
| ワイン | 2,308 | 2,075 | 2,226 | 2,267 | 2,413 | 4.5 |
| 発泡酒 | 4,884 | 5,278 | 5,106 | 7,361 | 7,477 | 53.1 |
| その他 | 3,065 | 3,750 | 4,337 | 2,500 | 2,538 | -17.2 |

資料：総務省「家計調査年報（1世帯当たり年間品目別支出金額）（総世帯）」

② 生菓子製造業

京菓子の歴史は古く、口伝によると、奈良時代に朝廷の御用を務めた後、平安遷都に伴って京に移転した事業所も存在するほどである。このように、長い歴史と伝統を誇る京菓子は、茶道と共に発達し、御所の年中行事や神社仏閣の供饌（ぐせん）菓子として供され、現在でも華麗さや品質の高さで全国的に親しまれている。

平成22年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）によると、京都市の生菓子製造業は事業所数66所、従業者数2,287人、製造品出荷額等332億円である。

近年の製造品出荷額等の傾向を見ると、平成14年までは減少傾向が続いていたが、平成15年に増加に転じ、その後も増加傾向にあった。平成22年は前年比でほぼ横ばいとなった〔表Ⅱ-3-2-5〕。

平成23年の菓子類の全国の消費額を平成19年と比較すると、菓子全体では増加率が0.7%と微増となっている。和生菓子は△6.9%と低下したが、スナック菓子やビスケット、チョコレート、アイスクリームは高い伸びを示している。全国的に生菓子の消費額が減少している一方で、京都市の生菓子の出荷額は増加している。これは、京都市の生菓子出荷額の多くは和菓子であり、観光客が購入するお土産や贈答品などにされることも多く、消費動向の影響は受けにくいためと思われる〔表Ⅱ-3-2-6〕。

表Ⅱ-3-2-5 生菓子製造業の製造品出荷額等の推移

(単位：万円，%)

| | 製造品出荷額等 | 対前年伸び率 |
|-------|-----------|--------|
| 平成13年 | 2,517,018 | -7.3 |
| 平成14年 | 2,470,089 | -1.9 |
| 平成15年 | 2,618,307 | 6.0 |
| 平成16年 | 2,620,022 | 0.1 |
| 平成17年 | 2,854,579 | 9.0 |
| 平成18年 | 3,135,523 | 9.8 |
| 平成19年 | 2,877,373 | - |
| 平成20年 | 3,406,109 | 18.4 |
| 平成21年 | 3,329,197 | -2.3 |
| 平成22年 | 3,320,007 | -0.3 |

資料：京都市総合企画局「平成22年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

注：平成19年調査で調査項目を変更したため、製造品出荷額等は前回の数値とは接続しない。

表Ⅱ-3-2-6 全国の主な菓子類の消費動向の推移

(単位：円，%)

| | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 対19年伸び率 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 菓子全体 | 64,873 | 67,083 | 67,818 | 66,412 | 65,335 | 0.7 |
| 和生菓子 | 10,543 | 10,670 | 10,577 | 10,288 | 9,819 | -6.9 |
| 洋生菓子 | 14,790 | 15,018 | 15,320 | 15,041 | 14,987 | 1.3 |
| せんべい | 4,410 | 4,639 | 4,655 | 4,459 | 4,427 | 0.4 |
| ビスケット | 2,580 | 2,908 | 2,856 | 2,809 | 2,769 | 7.3 |
| スナック菓子 | 2,898 | 3,293 | 3,320 | 3,349 | 3,334 | 15.0 |
| キャンデー | 1,805 | 1,986 | 2,192 | 1,961 | 1,879 | 4.1 |
| チョコレート | 4,413 | 4,710 | 4,697 | 4,643 | 4,673 | 5.9 |
| アイスクリーム | 5,822 | 5,945 | 6,124 | 6,333 | 6,149 | 5.6 |
| 他の菓子 | 17,611 | 17,913 | 18,074 | 17,529 | 17,298 | -1.8 |

資料：総務省「家計調査年報（1世帯当たり年間品目別支出金額）（総世帯）」